

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 6 月 8 日現在

機関番号：34311

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2020～2022

課題番号：20K00305

研究課題名（和文）語り物文芸論の再構築に向けた資料学的対照研究 地方諸藩の書物環境を視座にして

研究課題名（英文）A Documentary Study for Reconstructing the Theory of Narrative Literature

研究代表者

宮腰 直人（Miyakoshi, Naoto）

同志社女子大学・表象文化学部・准教授

研究者番号：50759157

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、語り物文芸論の再構築を目指し、地域諸藩の幸若舞曲の受容に注目した研究を行った。具体的には米沢藩や藩士が所蔵した書物群に注目し、書誌調査および言説分析を行った。言説分析に際しては、薩摩藩や加賀藩の事例を比較対照し、米沢藩の事例の検討を試みた。研究の成果としては、学会未紹介の幸若舞曲写本を報告し、それをも含めた論文を執筆することができた。また、環境文学論の視座から、新たな語り物文芸論を執筆することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義は、学会未紹介の近世期の幸若舞曲資料を中心に地域資料に根差した語り物文芸論を執筆し、発信したことにある。近年の語り物文芸論は、諸本の本文比較を中心とした作品論にとどまる傾向があるが、本研究ではそうした研究動向にゆさぶりをかけるべく、地域資料に取り組んだ点に特色がある。社会的な意義としては、ほとんど知られていなかった地域資料の発掘とあわせて地域の図書館において市民の方々と調査と研究成果の一端を共有し、議論することができた点にある。

研究成果の概要（英文）：In this study, we conducted research focusing on the Kowaka-mai of regional clans with the aim of reconstructing the theory of narrative literature. Specifically, a bibliographic survey and discourse analysis were conducted, focusing on books owned by the Yonezawa clan and its clansmen. In the discourse analysis, we compared and contrasted the cases of the Satsuma and Kaga clans, and attempted to examine the case of the Yonezawa clan. As a result of the research, we were able to report on the Kowaka mai, which had not yet been introduced at academic conferences, and write a paper that includes it as well. We were also able to publish a new theory of narrative literature from the perspective of environmental literature theory.

研究分野：日本文学

キーワード：語り物文芸 幸若舞曲 米沢藩 藩士の文事

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

本研究開始以前、近年の幸若舞曲研究は、注釈的研究や絵巻や絵入り本に関する研究、資料紹介が相次ぎ、地域資料や諸家・諸藩の文化環境のなかで舞曲を捉えた一部の先駆的な研究(庵途巖「毛利家本の成立」1976年、室木弥太郎『語り物(舞・説経・古浄瑠璃)の研究』1981年等)は、継承されているとはいいがたい状況にあった。本研究では、そうした研究の現状を打開すべく、幸若舞曲を中心に旧来の作品論やジャンル論を越えた新たな語り物文芸論を構築し、広く発信することを目指した。具体的には加賀金沢・前田家、米沢・上杉家、薩摩・島津家と幸若舞曲の関係に注目し、領主や藩士の蔵書、著述や編纂物等の地域社会の書物とその環境に注目し、研究を推進するというものであった。各地域の資料については、先学によって個別の研究成果があり、それらを再検証し考察を深め、さらには比較対照することで各地域の特色を浮き彫りにすることを目指し、最終的には統合化を目標として掲げた。

### 2. 研究の目的

本研究は、旧来の作品論やジャンル論を対象化し、幸若舞曲を中心に新たな語り物文芸論を構築し、発信するという目的で推進した。具体的には地域諸藩の蔵書のなかから藩士の文事に関する書物を調査し、その成果に基づき、軍記物語や語り物文芸の影響や受容に関する言説を集め、分析を行った。

#### (1) 地域諸藩の幸若舞曲の調査と検討

研究代表者の宮腰を中心に、市立米沢図書館に所蔵される米沢藩旧蔵の資料について書誌調査を行い、当該地域の軍記物語や幸若舞曲、語り物文芸テキストの紹介とその文化環境の解明を行った。2020年度は、米沢藩士・木村丈八の旧蔵書のなかから『こしごえ』を見だし、翻刻し紹介した。この資料を含め、米沢藩の語り物文芸受容の一端を論文化した。また、2022年度には、米沢図書館の古典文学講座で、研究分担者の鈴木が米沢藩に伝来する地域資料の検討から語り物文芸の受容を報告した。

#### (2) 曾我物語及び曾我物語絵巻の受容研究

研究代表者の宮腰を中心に、薩摩・島津家旧蔵の『曾我物語絵巻』について、『曾我物語』及び幸若舞曲研究の視座から検討を行い、2022年度に成果の一部を関西軍記物語研究会にて報告した。また、説話文学会のシンポジウム「曾我物語と説話」に参加し、主に語り物文芸や地域資料の視座からコメントを行った。語り物文芸論の再構築にむけて、成果の一部を発信することを目的とした。

### 3. 研究の方法

地域資料の書誌調査と考察を研究方法の軸にした。米沢図書館をはじめとする軍記物語や語り物文芸資料を所蔵する図書館におもむき調査を実施した。残念ながら新型コロナウイルスの流行もあり、当初の計画を適宜変更せざるをえなかった。だが、幸い米沢藩旧蔵資料は、米沢図書館当局の努力によって多くの資料がデジタル画像で公開されている。本研究では、そうした成果を活用させていただき、研究を推進することができた。調査した資料については、研究代表者の宮腰がデータ等を取りまとめ、幸若舞曲関連テキストや藩士の文事に関する資料を中心に、研究分担者の鈴木と南郷とともに検討を行った。鈴木は薩摩藩や島津家の家臣の文事に通じ、加賀藩の藩士に文事についても知見を有している。米沢藩資料の言説の比較対照に貢献した。また、南郷は地域諸藩の宗教政策に優れた知見を有している。近世期の宗教文化研究の視座からの言説分析に携わった。以上、書誌調査を軸に研究分担者との協働によって言説分析を進めた。

『曾我物語絵巻』の研究については、国立国会図書館のデジタルコレクションが提供するデジタル画像や国文学研究資料館が提供しているデジタル画像を適宜参照して推進した。成果の一部は、軍記物語や中世文学研究者が参加する研究会で報告し、さらに考察の指標を得ることを心掛けた。

### 4. 研究成果

本研究の成果としては、地域諸藩における語り物文芸受容、特に幸若舞曲の実態について、これまでほとんど注目されていなかった米沢藩の様相の一端を明らかにすることができた点あげられる。これまで書誌調査にもご協力いただいていた米沢図書館のご厚意もあり、古典文学講座にて、研究代表者の宮腰、研究分担者の鈴木、南郷による研究成果を発表し、地域資料に関心をもつ市民の方々と話題を共有、議論を深めることができたのも本研究の成果の一つである。これらの成果発信の過程から近世の幸若舞太夫や歌舞伎をになった芸能者の動向、あるいは諸藩の江戸藩邸における交流を視野におさめ、書物環境の形成や芸能受容の状況をさらに追求するという今後の研究の方向性が見定められた。

研究代表者の宮腰による論文2点は、語り物文芸論の再構築を目指して執筆したものである。

地域資料に基づく文学史の叙述の可能性を提示した論文、あるいは近年、広く人文学で共有されつつある環境文学研究の視座をふまえた論文の上梓によって本研究の成果を発信することができた。今後も本研究の成果を深化させて発信することと、新たに見えてきた課題への継続的取り組みによって、文学研究の可能性を問い続けることとしたい。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計10件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 宮腰直人	4. 巻 73
2. 論文標題 国会図書館蔵『曾我物語』覚書： 曾我物語絵 研究にむけて	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 同志社女子大学学術研究年報	6. 最初と最後の頁 152 (1) 148 (5)
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15020/00002347	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 宮腰直人	4. 巻 6集
2. 論文標題 米沢藩と 平家物語 藩士の文事を中心にして	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『軍記物語の窓』	6. 最初と最後の頁 397 414
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 宮腰直人	4. 巻 -
2. 論文標題 「幸若舞曲『文覚』小考 風 と 海難 の表象をめぐって」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『環境文学論集 (仮題)』	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 宮腰直人	4. 巻 -
2. 論文標題 「『曾我物語』研究の可能性 パネリストの報告を承けて」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『説話文学研究』57号	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木彰	4. 巻 57
2. 論文標題 二〇二一年度大会シンポジウム「戦争はいかに語られるか」へのコメント	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 説話文学研究	6. 最初と最後の頁 122 126
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 朴知恵・鈴木彰	4. 巻 22
2. 論文標題 「立教大学図書館蔵『平家物語』翻刻(三)巻第七~巻第九」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『立教大学大学院日本文学論叢』	6. 最初と最後の頁 42 118
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 南郷晃子	4. 巻 なし
2. 論文標題 児島高德の衰姿 「近代」津山における歴史/物語の葛藤	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『人はなぜ神話 ミュトス を語るのか』	6. 最初と最後の頁 161 184
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木彰	4. 巻 -
2. 論文標題 「髭切・膝丸 曾我兄弟と源氏の刀剣伝承」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『曾我物語 源氏をめぐる陰謀と真実』	6. 最初と最後の頁 56-61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木彰	4. 巻 -
2. 論文標題 「『髭切膝丸絵巻』にみる髭切・膝丸の行方」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『曾我物語 源氏をめぐる陰謀と真実』	6. 最初と最後の頁 62-69
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宮腰直人	4. 巻 33
2. 論文標題 市立米沢図書館蔵『こしこえ』翻刻・解題 米沢と幸若舞曲	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 同志社女子大学日本語日本文学	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件 (うち招待講演 4件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 宮腰直人
2. 発表標題 『曾我物語』の絵画化の諸相
3. 学会等名 関西軍記物語研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 宮腰直人
2. 発表標題 祝いと婚礼の絵本を読み解く 米沢図書館所蔵『ぶんしやう』の絵と言葉
3. 学会等名 市立米沢図書館第33回文学講座「当館の古典籍コレクションについて」(招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 鈴木彰
2. 発表標題 『『前田慶次道中日記』と語り物文芸 米沢図書館資料に刻まれた文学史の断章 』
3. 学会等名 市立米沢図書館第33回文学講座「当館の古典籍コレクションについて」(招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 鈴木彰
2. 発表標題 「異文化交流としての古典文学」
3. 学会等名 同志社女子大学日本語日本文学科講演会(招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 南郷晃子
2. 発表標題 米沢のキリシタン伝承と市立米沢図書館資料について
3. 学会等名 市立米沢図書館第33回文学講座「当館の古典籍コレクションについて」(招待講演)
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	鈴木 彰  (Suzuki Akira)  (40287941)	立教大学・文学部・教授   (32686)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	南郷 晃子 (中島晃子)  (Nango Koko)  (40709812)	南郷晃子・国際教養学部・准教授     (34426)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関